

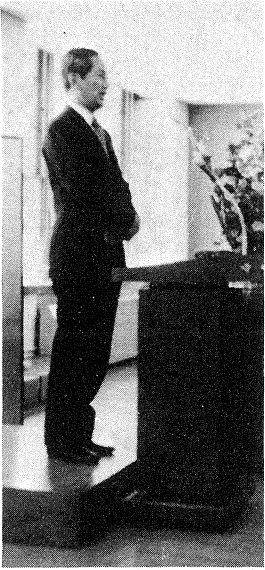
文化振興の条件を整備

就任に当たって

文化庁長官 犬丸直

全く思いがけず文化庁長官を拝命した私で、文化庁の仕事がどんなものか、まだ詳しくは何も知らないのですが、こんな心構えで勤めたいと思っている事の一、二を述べてみます。やがて事柄の理解が深まるにつれ、考えの変わるこ

とがあるかも知れませんが。
私は芸術や文化の事は個人的には大好きですが、しかし御自身一流の文化人であられた初代長官の今日出海先生などとは違ひまして、日本の文化の総元締というような、どえらい責任はとも負えそうもありません。文化好きの国民一般の代表として、ディレクターやアマチュアの気持を代弁して、国民生活に文化の恵沢が遍く行きわたるように諸条件を整備すること、そのような仕事の采配を振る、というのなら何とかつとまりそうです。一つの途に生命をかけ



ている芸術家の真の境地には、生半可な素人の容易にうかがい知れない所があると思えます。

しかし文化はそれを創り出す専門家のためだけにあるのではないので、質の高い聴衆、観衆、読者、愛好家などの存在は、すぐれた文化の創造に欠かせない一つの要件でもあると思えます。

文化の一般への普及と並んで、文化の創造を使命とするすぐれた専門家が育つような、またそのような専門家がじゅうぶんその天分を發揮できるような条件をととのえる事も、文化庁の重要な仕事でしょう。文化庁の予算がまだまだ少なく、先進諸国が文化のために支出している公費の大きさに比べて大変見劣りのすることはかねて聞いていました。歴代長官が積み上げて来られた成果をうけて、文化関係予算の増額には精一杯の努力をしたいと思えます。文化は政治や経済の単なるアクセサリではなく、政治の安定も経済の繁栄も、つまるところ人間が人間らしく生きる条件を作ること、文化の華を咲かせる土壌を養成することに外ならないのではないでしょう。文化予算の増大のためには、文化の第一義的な重要性の認識が各方面にひろくゆきわたるようにする息の長い努力が、基本的には一番大切であると考えます。

私は国際交流基金の理事を三年間つとめ、国際文化交流の仕事にたずさわった経験を持っています。このとき、日本文化の特質は何か、日本の文化は世界の文化の中でどのように位置づけられるのだろうか、といった事をずいぶん考えさせられました。現在の日本の文化的状況といったものを大観的に眺めると、何か大変錯雑したものに見えます。大きく日本固有の伝統的なものに淵源する文化と、主として西欧から入って来た外来文化とに分かれますが、この双方の領域がさらに無数の小領域に分かれていて、それぞれ異なる伝統、様式、原理などを持ってタコソブ的な小宇宙を形成しています。このような日本文化を外国へ紹介しようとすると、どこからどのように手をつけたらよいか迷う心の起ることしばしばです。それらのどれを取り上げて、それが日本文化を代表すると考えられるのは危険ですし、さりとてこのように雑多なものを一度に示すことは不可能ですし、できたとしても混乱した印象を与えるだけでしょう。伝統文化の分野の人たちには、これを世界の人に通ずる方法で説明し、その真価を分からせるにはどうしたらよいかという事を考え実践する人が少ない。一方欧米伝来の文化の領域では、「日本文化」として世界へ再輸出できるものはないかを、厳密に選別する事を要します。あらゆる事がグローバルな関連を持たざるを得ない今日において、文化だけが日本の殻に閉じこもってはいられない。世界文化の文脈の中でわれわれの文化を見直し、世界の人々に強くうったえ得る、個性的な日本の文化を發展させる、そういう気構えが必要だと感じました。